

# 《社会》 働く人たちの姿や思いから、働くことの意義につ

## 単元名 工業生産を支える人々（第5学年）

### ねらい

- 工業が盛んな地域の様子を具体的に調べ、工業生産に携わる人々が生産性を高める工夫や努力をしていることや、日本の工業の現状と課題をとらえることができる。
- 工業生産に関する写真や地図、統計などの資料を収集・選択し、国民生活を支える工業生産の意味や、運輸・貿易の働きについて関連付けながら考えることができる。

### 本実践とキャリア教育

本単元では、日本の代表的な基幹産業である自動車産業を中心にして学習します。自動車工場の見学やインタビュー等を通して、そこで働く人々が生産性や安全性を高めるために工夫や努力をしていること、また、自分たちの仕事に誇りや願いをもって働いていることなどを共感的にとらえることは、子どもたちの勤労観・職業観をはぐくむ上でも大いに役立ちます。



## 全体構想

### 〈国語科〉

- ・調べたことをもとにポスターセッションを開こう

### 〈家庭科〉

- ・工夫しよう！かしこい生活

### 〈道徳〉4-(2)

- ・働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする

### 〈総合的な学習の時間〉

- ・地球を守ろう君もぼくもエコリーダー

### 〈第1時〉

- ・自動車づくりについての疑問を見付け、工場見学の計画を立てる。

### 〈第2時〉

- ・自動車工場の配置の工夫や立地条件について考える。

### 〈第3・4時〉

- ・自動車工場の見学や働いている人へインタビューをする。

### 〈第5時〉

- ・自動車ができるまでの様子をとらえる。

### 〈第6時〉（本時）

- ・自動車づくりの工夫についてとらえる。

### 〈第7時〉

- ・働く人や地域の環境のための工夫についてとらえる。

### 〈第8時〉

- ・自動車部品関連工場の工夫や努力についてとらえる。

### 〈第9・10時〉

- ・工場生産された自動車がお客のもとに届くまでの流れと、交通網が運輸の仕事に果たす役割についてとらえる。

### 〈第11・12・13時〉

- ・安全性や環境への配慮、省エネ等、これからの時代に求められている自動車の開発のための工夫や研究についてとらえる。

## いて考えさせる

## 《本時のねらい》

自動車生産における、安全性・信頼性・生産性を上げるための工夫や働く人の努力と意思について理解することができる。

## 《展開》(6/13時間)

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 車体工場や組み立て工場を見学して気付いたことを発表する。 ・車体工場では多くのロボットが仕事をしていた。 ・組み立て工場では組み立てラインに沿って多くの人が働いていた。 ロボットと人が仕事を分担しているのはなぜだろう	○ロボットが主に作業をしていたところと、人が主に作業をしていたところがあったことに気付かせる。
展開	2 見学メモや資料からそれぞれに役割がある理由を考える。 「なぜロボットなのか」 ・単純で危険な仕事だから。・作業スピードがはやいから。 「なぜ人なのか」 ・細やかな作業はロボットでは難しい。 ・注文内容にそった柔軟な対応ができる。 ・チームを組んで工夫している。 3 ロボットを進化させれば、人は必要なくなるか話し合う。 ・作業内容を覚えさせたり、働きを見守ったりするのは人。 ・単純な作業の繰り返しはロボットでもできるけれど、複雑で細かな作業は人でないとできないことがある。 ・ロボットは工夫して仕事をするのが難しい。人は工夫したり、協力し合ったりできる。 ・最終的な点検は人がやらないと安心できない。	○安全性や信頼性、生産性を高めるための工夫の一つとして、危険で単純な作業はロボットを活用しているが、判断を伴う複合的な作業は人がしていることを理解できるようにする。 ◎いかに機械化やロボット化が進もうと、最終的には働いている人たちの仕事に対する責任と誇り、チームワークによってよい製品が生み出されることに気付かせる。
まとめ	4 課題に対するまとめを書く。 ・「早く、正確に、安全に」自動車をつくるために、危険で、単純な繰り返し作業ではロボットを使う場合が多い。また、一台一台違う部品の取り付け作業などの複雑で、細やかな作業などは人がチームを組んで工夫しながら行っている。よりよい製品は、働く人たちの努力と工夫、チームワークによって生み出される。よりよい製品を作り出すことは働く人たちのやりがいや誇りにもなっている。	☆自動車を「早く、正確に、安全に」作るための工夫や働く人の努力について理解し、まとめることができる。 ◎よりよい製品を生み出すことが働く人たちの誇りにもつながっていることをまとめとする。

## 実践のポイント

## キャリア教育を意識した、見学の視点を事前に指導しましょう

可能ならば本事例のように工場見学を実施し、生産現場を実際に見たりインタビューしたりすることで、より効果的にキャリア教育と結び付くとともに、教科としての目標も達成されやすくなります。その際、単に工場の様子や製造過程だけを見学するのではなく、キャリア教育を意識して、そこで働く人たちの様子や思いにも視点を当てた計画となるように事前指導することが大切です。こうしたことにより、学習の深まりが一層期待できるようになります。

# 《体育》 かかり合いの中で共に高め合う態度をはぐくむ

## 単元名 めざせ！キラキラプレイヤー —ソフトバレーボール—(第5学年)

### ねらい

- 自分やチームに合った課題をもち、安全に気を付けながら、友達と励まし合って練習やゲームをしようとするができる。
- 自分やチームの課題を見付け、チームで練習方法を考えたり、作戦を工夫したりすることができる。
- ボールを片手や両手で操作して、味方につなげたり相手コートに戻したりすることができる。

### 本実践とキャリア教育

子どもたちの実態を踏まえつつ、その教科の特性を生かした単元構成の中に、キャリア教育で育てたい力を取り入れていきましょう。

この実践例では、自分たちで課題を見付け解決に向かう学習に取り組んでいます。また、そうした学び合いが集団活動を高めるためにも大切であることに気付かせるための体験を大切にして単元構成をしています。その中で、キャリア発達課題として、目標に向かって自分で選んだり決めたりする力や、自分のよさを発揮しながら交流したり力を合わせてものごとに取り組んだりする力の育成に取り組んでいます。

自己選択・自己決定する場面を多く設定したり、ペアのチームでアドバイスし合う場面を設けたりするなどの手立ては、すぐには成果が見えにくいものです。継続し意図的に取り組んでいくことが望まれます。



## 全体構想

課題をつかませるには

活動のねらいを明確にする。  
チームのめあてを基に自分に合っためあてをもたせる。  
自己選択・自己決定する場面を多く設定する。

〈学級活動〉(2)エ  
当番活動等の役割  
と働くことの意義  
の理解

ボールになれよう！ゲームをしよう  
(3)

チームのみんなと協力し  
練習ゲームをしよう  
(本時2/3)

作戦を工夫しゲームを楽しもう  
(3)

学習のまとめをしよう  
(1)

自分のよさ・友達の  
よさに気付かせるには



めあてに向かって練習  
や作戦を工夫する場を設  
定する。  
よく声をかけ高め合っ  
ているグループを全体に紹  
介する。  
ペアのチームでアドバイ  
スし合う場面を設ける。

〈道徳〉2-(3)  
互いに信頼し、学  
び合って友情を深め、  
男女仲よく協力し助  
け合う。

## 《本時のねらい》

- ・教え合ったり励まし合ったりして練習やゲームに取り組むことができる。
- ・練習やゲームでの成果や課題について話し合い、次の活動に生かすことができる。

《展開》(5/10時間)

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 学習の流れとめあてを確認する。 ・友達に教えてもらって上手になりたいな。	◎前時で友達によさに気付いていた児童の振り返りを紹介し、本時もお互いによさに気付くことができるようにする。
展開	2 試しゲームをする。 3 チームごとに練習する。 ・友達から「○○するといいよ。」と教えてもらったよ。  4 再びゲームをし、話し合いをする。 ・チームで声をかけ合っていたね。 	○ゲームを通して課題を見付けられるようにする。 ○課題を踏まえて、どのよう練習に取り組めばいいかそれぞれのチームに助言したり、つまづきを予想しチームに合った支援をしたりする。  ○ペアのチームのゲームを見る際は、見合うポイントを明示し、アドバイスできるようにする。  ◎いい動きや声かけ、発言等、場面に応じて賞賛し、それぞれによさに気付くことができるようにする。  ☆練習やゲームでの成果や課題について話し合い、次の活動に生かそうとしている。
まとめ	5 本時の振り返りをする。 ・○○さんはよくチームの中で声をかけていたな。次はぼくもがんばってみよう。 	○次時の活動に生きるよう、チームの課題を確認し、練習方法の検討ができるようにする。  ◎個人の学習カードに、自分のがんばりや自分なりに伸びたこと、また、友達によさについて気付いたことを記入するよう促す。  ☆お互いに教え合ったり励まし合ったりして練習やゲームに取り組んでいる。

## 実践のポイント

## かかわり合いを大切にしましょう

この実践では、一人一人に課題をつかませるために、大・中・小の学習集団を組み合わせ、単元の中にいくつかのかかわり合いを設定しています。それぞれの場面で、子どもたちは、相手の気持ちや立場を考え、自分の役割を意識しながら協力し合って活動を進めます。かかわり合いの多い活動は、自分のよさ・友達によさに気付くことにつながっていくことができます。お互いに高め合っていく単元構成を工夫したいものです。

## 学級づくりが基盤です

ソフトバレーボールのように、学習内容によっては体格や技能の違いが学習内容や意欲に影響を及ぼす場合があります。一人一人が可能性を発揮していく学習に向けて、ルール設定等の工夫をすることに加え、普段から人間的な触れ合いを基盤に学級づくりを進めることが大切です。

# 《道徳》 夢や目標をもって、あきらめずに努力しようとする

## 主題名 希望をもって 1-(2)(第5学年)

### 資料名

メジャーリーガー・イチロー (出典「みんなのどうとく5年」学研教育みらい)

### ねらい

夢をもつことの大切さに気付き、目標に向かって希望と勇気をもってくじけないで努力しようとする心情を育てる。

### 本実践とキャリア教育

高学年は、より具体的に自分の将来や夢について考え始める時期と言えます。そこで、本主題では、自分の夢をしっかりとつかむために努力を惜しまないイチローの情熱を感じ取らせることにより、夢をもちそのための努力をすることを意識させ、より高い目標を立てて困難や失敗にくじけずに、希望をもって一步一步努力しようとする意欲を育てることをねらいとしています。

本主題は、「様々な人とかかわる体験活動」「学校行事や日常の取組を振り返る活動」など、特別活動や総合的な学習の時間、国語科、図画工作科などと関連付けた横断的な学習を展開することにより、さらに深まりのある学習とすることができます。



## 全体構想

### 〈特別活動〉

児童会活動  
・委員会活動  
・異年齢集団による活動  
クラブ活動  
学校行事(例)  
・運動会  
・陸上記録会  
・マラソン大会  
・学習発表会  
〈日常生活〉  
・清掃などの当番活動

### 〈道徳の時間〉

よいところを伸ばそう。  
「日本の『まんがの神さま』1-(6)  
・自分の長所を知って、それを伸ばしていこうとする心情を育てる。



希望をもって  
「メジャーリーガー・イチロー」  
1-(2)

心のノート

### 〈国語科〉

○生き方を考えながら読もう  
「みずゝさがしの旅」  
〈図画工作科〉  
「ゆめをかたちに」  
〈総合的な学習の時間〉  
★人とかわり合いながら自己の生き方について考える単元  
「人生の先輩から学ぼう」等  
〈特別活動〉  
・学級活動(2)ア  
★希望や目標をもって生きる態度の形成にかかわる題材  
「もうすぐ6年生」等



# 意欲を育てる

## 《本時のねらい》

夢をもつことの大切さに気付き、目標に向かって希望と勇気をもってくじけないで努力しようとする心情を育てる。

## 《展開》

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 自分の夢や目標について振り返る。 2 イチローの略歴やメジャーリーグでの活躍について知る。	◎他教科等で学んだことや諸活動での体験と関連付けながら自分の夢や目標について振り返らせる。
展開	3 夢をもち、目標に向かって努力を続けるイチローの姿について考える。 (1)小学生のとき、父とたくさんの練習を続けていたイチローは、どんなことを考えていたのでしょうか。 (2)一軍に上がった時、二軍に落ちたりしているとき、イチローはどんな気持ちだったのでしょうか。 (3)イチローがアメリカン・リーグで最優秀選手になれたのは、なぜでしょうか。	○イチローの活躍のすばらしさについて実感しながら学習を進めることができるよう、写真や記事などの資料を効果的に提示する。 ◎自分たちと同年代である小学校時代から夢をもち、将来に向かっての努力をしていたことに気付かせる。 ◎困難を乗り越える精神的な強さや努力を継続することの大切さに気付かせる。
まとめ	4 イチローの生き方から学んだことについて考える。 ○イチローの生き方から学んだことで、あなたの生き方に生かしていきたいと思うことについて考えましょう。	◎「夢」を特定の職業に限定して考えないようにさせ、児童一人一人が、イチローの生き方から学んだことを自分の夢や目標の実現のために生かそうとする気持ちを大切にしようとするよう助言する。 ☆夢をもつことや目標に向かって努力することの大切さに気付き、自分の生き方に生かそうとしている。

## 実践のポイント

### 高学年としての多様な経験を生かして指導の充実を図りましょう

高学年においては、自己の生き方及びその基盤となる道徳的価値観の徹底を図る指導を徹底する観点から、集団の一員としての役割と責任などに関する多様な経験を生かし、自己に対する肯定的な自覚を促しながら、夢や希望をもって生きることの指導を充実させる必要があります。

本実践では、特別活動など集団の一員としての役割や責任などに関する多様な経験を基盤として、道徳の時間と国語科・図画工作科・総合的な学習の時間・特別活動等を横断的に関連付ける工夫をしました。また、自らを見つめさせ、未来に夢と希望をもって力強く生きようとする心情を国語科や図画工作科などにおける表現活動によって深め、総合的な学習の時間や特別活動における体験活動によって発達させることが可能であると考えます。

# 《道徳》 働くことの意義を理解し、人々のために役立つ仕

## 主題名 働くことの意義 4-(4)(第5学年)

### 資料名

母の仕事 (出典 牧直美作「母の仕事」/小学校・道徳の指導資料とその利用 5-高-7 文部省)

### ねらい

働くことの意義を理解するとともに、人々のために役立つ仕事をしようとする意欲を育てる。

### 本実践とキャリア教育

高学年は、属している集団や社会における自分の役割や責任などについての自覚が深まっていく時期です。本主題は、働くことの充足感について語る「母」の考え方を通して、「人のために働くよるこび」「自分が成長するよるこび」といった「働くことの意義」について考えさせ、児童が受け身ではなく主体的に働こうとする意欲をもつことをねらいとしています。

本主題は、「様々な人とかかわる体験活動」「学校行事や日常の取組を振り返る活動」など、特別活動や総合的な学習の時間、家庭科などに関連付けた横断的な学習を展開することにより、さらに深まりのある学習とすることができます。



## 全体構想

### <特別活動>

児童会活動  
・委員会活動  
・異年齢集団による活動  
学校行事  
・勤労生産・奉仕的行事  
<日常生活>  
・清掃などの当番活動  
・学校内外でのボランティア活動

### <道徳の時間>

働くことの意義  
「母の仕事」 4-(4)

みんなの役に立つ  
「弘くんの委員会活動」  
4-(4)

・働くことの意義を理解し、  
社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。

### <家庭科>

★家庭には自分の生活を支える仕事があることが分かり、自分の分担する仕事ができることにかかわる題材「どのように生活しているかな」等  
<総合的な学習の時間>  
★人とかかわり合いながら自己の生き方について考える単元「人生の先輩に学ぼう」等  
<特別活動>  
○学級活動 (2)エ  
★清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解とかかわる題材「清掃・当番活動について考えよう」

心のノート

## 事をしようとする意欲を育てる

## 《本時のねらい》

働くことの意義を理解するとともに、人々のために役立つ仕事をしようとする。

## 《展開》

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 職業人とかかわった経験について話し合う。	◎学校内外の職業人とかかわった体験活動を想起させ、社会には様々な職業があることや出会った人物の仕事に対する思いを確認する。
展開	2 資料『母の仕事』を読み、「お母さん」の仕事に対する考えについて話し合う。 (1)「お母さん」が体は疲れても、仕事を続けている理由はなんでしょう。 (2)「お母さん」の話聞いて、ひろ子は何を感じたでしょう。 3 「働くことの意義」についてまとめる。 ○「働くことの意義」について自分が考えたことをまとめましょう。	○働くことによって得られる喜びや満足感について母親が語る言葉を基に考えさせる。 ○母親の仕事に対するひろ子の思いの変容についてとらえさせることにより、勤労に対する尊敬の気持ちをもたせる。  ◎「働くことの意義」について、本資料やこれまでにかかわった職業人たちとの体験を基に自分なりの言葉でまとめるよう助言する。
まとめ	4 自分の体験から、働くことによって自分が成長したり、喜びを感じたりしたことや自分がやってみたくらいことについて話し合う。	◎互いの経験や考えを聞き合うことにより、「働くことの意義」について視野を広げさせる。  ☆働くことの意義を理解し、人々のために役立つ仕事をしようとする意欲をもっている。

## 実践のポイント

## 職業人とかかわった体験活動の経験を生かした学習を工夫しましょう

高学年の児童は、低学年の生活科や中学年の社会科、総合的な学習の時間、また、学校内外における様々な体験活動を通して職業人とかかわった経験が少なからずあることと思います。

本時では、そうした経験を踏まえながら、資料の「お母さん」の姿を通して勤労観や職業観について考えさせます。低学年時から「社会の様々な職業に興味をもち、働くことの大切さや楽しさについて感じる」といったキャリア教育の視点で教育活動を進めることにより、本時で取り上げる「働くことの意義」について児童は体験に基づいた深まりのある学習を展開することができます。

## 総合的な学習の時間等と関連付けて道徳的な価値の自覚を深めることができます

本時の内容と関連させて、総合的な学習の時間で「自分が興味をもっている職業について、その職業が人や社会のためにどのように役立っているか調べる」「様々な職業人から『働くことの意義』について話を聞いてまとめ、発表会をする」などの探究的な学習で学んだことを道徳の時間に生かすことにより、児童は道徳的な価値の自覚をさらに深めることができるものと考えます。



# 《外国語活動》 外国語を用いて、コミュニケーションを図

## 単元名 世界の「こんにちは」を知ろう(第5学年)

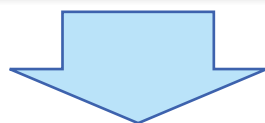
### ねらい

- 世界には様々な言語があることを知る。
- あいさつのマナーを知り、友だちや初対面の人と積極的にあいさつをする。
- 名刺交換などの活動を通して、英語で自分の名前を相手に伝える。

### 本実践とキャリア教育

外国語活動の始まりである本単元のテーマは「世界の『こんにちは』を知ろう」です。外国語活動を始めるに当たって、世界には様々な言語があり、どの言語もかけがえのないものであることや、あいさつに用いられるジェスチャーなども様々であることについて、体験的な活動の中で気付かせていきたいものです。具体的な活動の場面では、地域のネイティブ・スピーカーや外国生活の経験者、海外事情に詳しい人、外国語に堪能な人などの協力を得て、実際に児童とあいさつをする活動を取り入れることで、児童の外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとする意欲を一層高めることができます。

また、外国語を初めて学習することに配慮し、体験的なコミュニケーションについては丁寧に支援を行い、児童が安心して活動に取り組むことができるようにすることも、外国語活動への意欲を高めるために必要です。



## 全体構想

〈国語科〉  
○元気に声を出し合おう  
「自分をアピールしよう」

〈外国語活動〉  
世界の「こんにちは」を知ろう(3時間)

〈第1時〉(本時)  
・世界には様々なあいさつがあることを知る。

〈第2時〉  
・あいさつのマナーを知り、積極的にあいさつし、自分の名前を言う。

〈第3時〉  
・友だちとあいさつをし、作成した名刺を交換する。

〈音楽科〉  
「アジアの音楽に親しもう」  
〈道徳〉4-(8)  
・外国の人々や文化を大切にすることをもち、日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努める。

# る楽しさを味わわせる

## 《本時のねらい》

世界には、様々なあいさつがあることを知る。

《展開》(1/3時間)

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 あいさつをする Hello./Good morning./OK. 2 指導者の自己紹介を聞く。	○初めての外国語活動に対する児童の緊張を解きほぐすための雰囲気づくりを心掛ける。
展開	3 ALTにあいさつをして、名前を言う。 My name is～ 4 【Let's Chant】 ・チャンツを聞き、一緒に言う。 ・名前を尋ねられた児童は、～に名前を入れて言う。 5 【Let's Listen】 ・英語以外で知っているあいさつを答える。 ・CDやALT、ゲストティーチャーなどから世界のあいさつを聞く。 ・指導者のあいさつに答える。 6 【Let's Play】 ・ゲームの説明を聞き、ペアになり、ゲームをする。	○学級担任は、ALTに名前を言えた児童を褒めたり、なかなか名前が言えない児童には、一緒に名前を言ったりして、ALTと児童との橋渡しをする。  ◎地域のネイティブ・スピーカーや外国生活の経験者、海外事情に詳しい人、外国語に堪能な人などの協力を得ることが可能であれば活用し、ジェスチャーや表情を比較する中で日本と外国の違いや多様なものの見方や考え方があることに気付かせる。  ☆世界には様々なあいさつがあることに気付いている。 ○児童に活動の方法を十分に理解させ、児童が外国語でコミュニケーションを取ることや今後の外国語活動に対して意欲をもって取り組むことができるようにさせる。
まとめ	7 振り返りをして、あいさつをする。	◎世界の様々なあいさつについて学んだことを確認し、次時の意欲につながるように、具体的に児童のよかった点などを評価する。

## 実践のポイント

### 他教科等における国際理解にかかわる内容と関連付けて理解を深めましょう

外国語活動では、「外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ること」「日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深めること」を目指します。国語科、音楽科などの他教科等で児童が学習したことを活用したり、道徳の時間との関連を考慮したりしながら指導することにより児童の理解をさらに深めることができます。

### 世界に目を向けたキャリア教育を工夫することが可能です

21世紀を担う児童が、広い視野から自分の生き方について考えることは重要であると言えます。外国語活動では、本単元に限らずキャリア教育の視点から多くの能力・態度を育成することが可能です。各学校で育成したいキャリア教育にかかわる能力・態度を、世界に目を向けた実践を通して伸ばしていきたいものです。

# 《総合的な学習の時間》 社会と自己とのかかわりから、自

## 単元名 人生の先輩から学ぼう(第5学年)

### ねらい

- 様々な人物の生き方についての情報を収集し、情報から自分が感じ取ったことや考えたことを分かりやすくまとめ、表現することができる。【学習方法に関すること】
- 将来のことを考える大切さを認識し、自ら進んで探究活動に取り組むことができる。【自分自身に関すること】
- 場にふさわしいあいさつや言葉遣いなど、社会生活を営む上で必要とされる礼儀やマナーを守り、相手の気持ちを思いやった行動をとろうとしている。【他者や社会とのかかわりに関すること】

### 本実践とキャリア教育

総合的な学習の時間の目標には「自己の生き方を考えることができるようにする」ことが明記されています。本単元では、児童がこれまでに様々な人とかかわりながら体験した活動を踏まえ、高学年の視点から家庭や地域の方との学びを通して「生き方」について考える学習を展開します。さらに、第6学年では、職業人とさらに深くかかわり合いながら学ぶ単元や卒業を間近に控えた時期に自分の未来について改めて考える単元を設定することにより、6年間の児童の学びの系統性を重視した「生き方」にかかわる学習が展開できると考えます。

## 全体構想

○第1学年生活「だいすきだよ」…家庭との連携  
・家庭内の仕事を理解し、自分がやってみたい仕事に挑戦する。

○第2学年生活「レッツゴー 町たんけん」…地域との連携  
・自然や人々の様子、自分たちの生活とのかかわりに気付く。

○第3学年総合「〇〇町じまん」…地域との連携  
・町の特色についてテーマを設定し追究する。

○第4学年総合「ボランティア活動をしよう」…地域との連携  
・「福祉」の視点から、自分たちの町について追究する。

○第5学年総合「人生の先輩から学ぼう」

○第6学年総合「めざせ! 〇〇の達人」…職業人などとの連携  
・職業人と深くかかわり合いながら生き方や職業観などを学ぶ。

○第6学年総合「未来への飛翔」…中学校・職業人などとの連携  
・自分の将来の夢や目標を思い描く。

### 単元の流れ

- 課題を設定し、活動計画を立てよう。
- 様々な人から生き方について学ぼう。
  - 先人の伝記から生き方を学ぼう。  
＜他教科等と関連＞
  - 身近な人から生き方を学ぼう。  
・家族 など
  - 地域の「達人」から生き方を学ぼう。  
・ケーキ職人  
・陶芸作家(本時)
- 学んだことを整理・分析し、自分の生き方に生かしたいことについて考えよう。
- 学んだことをまとめ、発表しよう。
- 学んだことを基にして、自分の課題について深く追究しよう。
- 追究したことについて、分かりやすくまとめよう。
- 単元の学習全体を振り返り、学んだことについて発表しよう。

## らの夢や希望をふくらませる

## 《本時のねらい》

地域の「達人」の技を見たり、話を聞いたりすることにより、技術や人間性、生き方のすばらしさを感じ、自己の生き方に生かしていきたいことについて考える。

《展開》(13・14/27時間)

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	<p style="text-align: center;">オーストラリア出身の陶芸作家から生き方を学ぼう</p> <p>1 ゲストティーチャーを迎える。 2 本時の流れとめあてを確認する。</p>	◎地域の「達人」のすばらしさを学び、自己の生き方に生かすという視点で活動することを確認する。
展開	<p>3 ゲストティーチャーに質問をする。 ・なぜ、陶芸の中でも日本の益子焼を選んだのですか？ ・陶芸家という職業はどんなところが楽しいですか？ ・オーストラリアと日本で、生き方の違いはありますか？ ・ご自身の体験から、今、わたしたちがやっておいた方がよいことや身に付けておいた方がよいことを教えてください。 4 ろくろで作品を作る技を見せていただき、技のこつを伝授していただく。 5 本時の活動を通して学んだことや感想、新たな質問について発表する。 6 ゲストティーチャーから児童へのメッセージを聞く。</p>	◎相手に対して尊敬の気持ちを持ちながら、礼儀正しい態度で質問を確認する。 ○追究を進めるのに適した質問方法について、必要に応じて助言をする。 ☆地域の「達人」のすばらしさを感じ、自己の生き方に生かしたいことについて考えている。
まとめ	7 本時の活動を振り返り、感謝の気持ちをもってゲストティーチャーを送る。	◎本時の活動で見られた児童の学びのよさなどについて確認する。

## 実践のポイント

## 外部人材を活用した「人とかかわり合う活動」を大切にしましょう

本単元では、情報収集の手法の一つとして家族など身近な人に「生きること・働くこと」についてインタビューをする活動を取り入れました。毎日接しているにもかかわらず、家族と「生きること・働くこと」について真剣に話し合った経験のある児童は少なく、児童・家庭の双方にとって有意義な活動となります。キャリア教育を推進する上で、「家庭を巻き込む」ことは重要です。

また、地域社会には、それぞれの道の多くの「達人」がいます。多くの職業人に来ていただいてグループごとに話を聞く方法も有効ですし、本単元のように、一時間全員でじっくりと話をしたり、共通体験をもったりすることも意義のあることです。

本単元は、「生き方を学び、自分の生き方に生かす」ことをメインとした単元設定ですが、各小学校においては「既に特色のある総合的な学習の時間の活動を展開しており新たな単元設定は難しい」という場合も多いと思います。しかし、「人とかかわり合う活動」の中で、「なぜ、この生き方を選んだのか」などキャリア教育の視点から児童に考えさせる場を設ける工夫をすることにより、キャリア教育の実践として充実したものになると考えます。

# 《国語》 伝記から生き方, 考え方を学び, 自己の生き方に

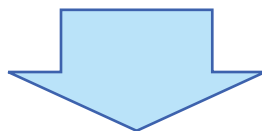
## 単元名 夢に向かって (第6学年)

### ねらい

- 伝記の構成に気付き, できごとや人物の考え方・行動を自分の考えを明確にしながら読むことができる。
- 伝記中の人物の生き方に共感したことや, 関心をもった問題について発表し合い, 自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

### 本実践とキャリア教育

「赤毛のアン」の作者, ルーシー=モード=モンゴメリーの伝記を学習材とした指導例です。中学校進学を控えて自分の生き方や将来の夢についての意識が高まるこの時期に「伝記」を取り上げ, その人の生き方や考え方を学ぶことを通して, 自分の生き方について考えることは, キャリア教育と深くかかわります。



## 全体構想

### 〈社会科〉

- ・世界で活躍する日本人

### 〈総合的な学習の時間〉

- ・なりたい自分に近付こう

### 〈道徳〉1-(2)

- ・より高い目標を立て, 希望と勇気をもってくじけないで努力する。

### 〈学級活動〉

- ・最高学年として
- ・もうすぐ中学生

### 〈学校行事〉

- ・中学校入学説明会
- ・卒業式

### 〈第1時〉

- ・「赤毛のアン」やその作者であるルーシー=モード=モンゴメリーについて知る。
- ・全文を読んで初発の感想をまとめ話し合う。

### 〈第2時〉

- ・簡単な年表にモードの半生をまとめる。

### 〈第3～6時〉

- ・子どもの頃のモードの行動や思いを読み, 自分の考えをもつ。
- ・苦しい生活の中で作品を書き続けたモードの行動や思いを読み, 自分の考えをもつ。
- ・働きながら作品を書き続けるモードの生活や思いを読み, 自分の考えをもつ。(本時)
- ・「赤毛のアン」を書いた頃のモードの生活や思いを読み, 自分の考えをもつ。

### 〈第7時〉

- ・モードの夢や生き方について振り返り, 感想をまとめ話し合う。

### 〈第8～9時〉

- ・紹介したい他の人物の伝記を選んで読み, 紹介カードを作る。

### 〈第10時〉

- ・それぞれの人物の生き方とそれに対する自分の感想や考えを, グループごとに紹介し合う。



# ついて考えさせる

## 《本時のねらい》

働きながら作品を書き続けるモードの生活や思いを読み、モードの生き方に対する自分の考えを明確にすることができる。

## 《展開》(5/10時間)

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 今日の学習場面を、「モードの年表」で確かめる。 ・大学に入学して1年で卒業した。 ・雑誌社で原稿が採用された。 作品が返信されても、働きながら小説を書き続けるのをやめなかったのはなぜだろう ○モードが職につきながらも小説を書き続けていたことをきちんと押さえる。	
展開	2 働きながら小説を書き続けるために、どんな苦労があったかを本文から見付ける。 ・作品を雑誌社に投稿し続けても、その多くはあっけなく返送された。 ・朝6時に起きて、出勤前の1時間マイナス30度近い寒さの中で作品を書き続けた。 ・作品のほんの一部しか採用されなかった。 ・新聞社では、仕事の合間にほんの数分でもひまを見つけて書いた。 3 モードはどんな思いで作品を書き続けたのかを、自分の経験や思考と関係付けながら話し合う。 ・簡単にあきらめられるような夢ではなかったと書いてあるから、子どもの頃からずっと目指してきたことだっただろうし、どんなことがあっても夢を実現させたかったと思う。 ・「金儲けのための作品」は好きではありませんでしたと書いてあるから、報酬を受け取ることだけが目的ではなく、それ以上に自分の書いた作品を多くの人たちが読んでくれることに喜びを感じてがんばったと思う。	◎「ひとつの成功のかげにどれだけ落胆があるかということを知らない。成功だけを見て、すべてが思いのままになっていると考えてしまうのだ。」というモードの思いと苦労とを関連付けて考えさせることにより、夢の実現のかげには、数多くの努力や困難の克服等が存在していることに気付かせる。 ◎「夢の実現」「報酬だけが目的ではない」などの言葉に着目し、自分の経験や思考と関係付けながら、モードの思いを読み、自分がどう考えるのかを明らかにさせていく。
まとめ	4 モードの生き方に対する自分の考えを「モードへの手紙」として書く。 ◎モードへの手紙として書かせることにより、モードの生き方や考え方に対する自分の考えも含んだまとめとなるようにする。	☆困難に負けず、夢の実現に向けて働きながらも小説を書き続けるモードの努力や思いと、それに対する自分の考えをまとめることができる。

## 実践のポイント

### 人物の生き方、考え方に関わる叙述を大切にしましょう

伝記を学習材とした取組はそれ自体キャリア教育と深く関わりますが、単なる叙述の読み取りだけでは十分とは言えません。人物の生き方や考え方に関わる叙述を見付け出し、そこに焦点を当てて読み取っていくことが大切です。また、様々な場面における選択や考え方に対して、自分はどのように考えるのかをまとめさせていくことも必要です。実践においてこうした取組に心掛けることにより、子どもたちは伝記の中の人物と自分とを重ね合わせて考え、そこから学んだことを自己の生き方を考える上でのヒントとしていくはずで。

# 《社会》 夢や希望, 憧れる自己イメージをはぐくむ

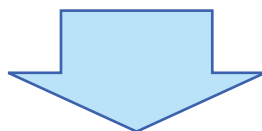
## 単元名 世界の人々とともに生きる (第6学年)

### ねらい

- 日本が, 国際問題やスポーツ・文化の交流を通して外国と深いつながりのあることを理解し, 正しい国際理解の基に, 他国と協調していく姿勢をもつことの大切さについて考えることができる。
- 世界平和の大切さとその実現のために努力している人々の思いや, そうした人たちが国際社会に果たしている役割について理解することができる。

### 本実践とキャリア教育

本単元では環境や福祉, 文化, スポーツ等において世界で活躍する人たちや組織について, 自分の将来の夢や希望と重ね合わせながら学んでいくことが大切です。未来の担い手である世界の子どもたちがおかれている様々な状況と, 国際社会においてその改善に向けて努力する人々とその思い, そして自分たちの今や将来の生活との関連を考えながら学習を進めていくことがキャリア教育につながります。



## 全体構想

### 〈国語科〉

- ・環境とともに  
「エネルギー消費社会」
- ・共に生きる  
「アジアを見つめる, アジアから考える」

### 〈理科〉

- ・生物と環境
- ・自然とともに生きる

### 〈道徳〉

#### 4-(4)

働くことの意義を理解し, 社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。

#### 4-(8)

外国の人々や文化を大切にすることをもち, 日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努める。

### 〈第1時〉

- ・青年海外協力隊, ユニセフ, 国境なき医師団等の活動の概略から, 世界でどんな問題が起きているかを知る。

### 〈第2時〉

- ・世界の子どもたちがおかれている状況とユニセフ等の活動を調べ, 人権や環境を守るための国際連合の役割と自分たちとのつながりについて理解する。

### 〈第3時〉

- ・地球環境等について国際協力の現場で活躍する人々の具体的な取組や思いを調べ, 地球環境を守る大切さや自分たちの暮らしとの関わりについて理解する。

### 〈第4時〉 (本時)

- ・世界の平和を支える現場で活躍する人々の具体的な取組や思いを調べ, 平和の大切さや自分たちの暮らしとの関わりについて理解する。

### 〈第5時〉

- ・スポーツや芸能などを通しての国際交流について調べ, 互いを理解し, 尊重することの大切さについて理解する。

### 〈第6時〉

- ・これからの世界と自分たちの関係について調べ, すべての人の人権が尊重され, 安心して暮らすことができる社会について考える。

## 《本時のねらい》

紛争や災害の被害を受けている人々を支援する医療活動を行っている国境なき医師団について調べ、その思いや生き方について考え、国際理解・国際貢献の大切さについて理解することができる。

《展開》(4/6時間)

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 国境なき医師団の活動の様子をプロジェクターで見る。 ・病院ではなくて屋外で、違う国の人たちの治療をしている。 ・どうしてわざわざ外国で医療活動をしているのかな。 国境なき医師団で働く人たちは、どんな思いで、どんな活動をしているのだろう	
展開	2 ホームページ等の資料や教科書から国境なき医師団の憲章や活動等について調べる。 ・紛争や自然災害、伝染病などに苦しむ人々への医療活動を行う民間団体として、フランスで設立された。 ・憲章に「天災、人災、戦争などあらゆる災害に苦しむ人々に、人種、宗教、思想、政治すべてを超え、差別することなく援助を提供する」とうたっている。 ・毎年約3,000人の医師や看護婦を世界約70か国へ派遣し、現地のスタッフとともに医療活動に当たっている。 3 国境なき医師団に参加した医師の話を読んで、わかったことやその思いについて話し合う。 ・医療設備や物資が不足している地域の人たちを一人でも多く助けたいという思いで参加した。 ・どんな場合も人まかせにせず、自分の意見をしっかり表明し、相手の意見も尊重して意見を通わせることがとても重要。 ・仲間や現地の人々と触れ合いながら目的に向かって努力した経験を通して、価値観も大きく変わったと言っているから、自分自身を成長させるためにも参加しているんだと思う。	☆国境なき医師団の活動等について資料を使って調べ、まとめることができる。  ○参加者のブログ等の資料も準備し、必要に応じて提示する。  ◎使命感や自己成長といったことに視点を当てることにより、生きがいややりがい、自己実現にもつながっていることに気付かせたい。
まとめ	4 国境なき医師団の活動や、そこで活動する人たちの思いや生き方について自分の考えをまとめる。	☆国境なき医師団で活動する人たちの思いと国際協力・国際理解の大切さについてまとめること。  ◎活動そのもののまとめだけでなく、活動する人たちの思いや生き方とも関連付けながら、国際協力・国際理解の大切さについてまとめられるよう支援していく。また、自分の将来の生き方の参考になった点についても触れさせたい。

## 実践のポイント

可能ならば、体験談を直接聞けるとより効果的です

国境なき医師団の他にも、青年海外協力隊等の活動からの学習展開も考えられます。できれば海外での直接体験をもつ方を招いて話を聞く機会をもてると、より効果的です。活動そのものの理解だけでなく、その思いや生き方を大切にすることにより、主体的に生きていく意識を高めさせていきましょう。

# 《家庭》 自己と家庭,家庭と社会とのつながりから生活を

## 題材名 地域とのつながりを広げよう(6学年)

### ねらい

- 自分の生活と近隣の人々の生活とのかかわりに気付くことができる。
- 近隣の人々や自分の家庭生活についての課題をもち,工夫しようとするすることができる。
- 問題解決的な学習の過程で学んだこと,実行したことを発表し合うことができる。
- 学習を基に自分の生活を工夫し,実践しようとするすることができる。

### 本実践とキャリア教育

本題材は,自分の生活と近隣の人々の生活とのかかわりを見つめ,家族の一員としての自覚をもって家庭生活をよりよくするために工夫をしようとする態度を育てることをねらいとしています。「社会生活には様々な役割があることやその大切さが分かること」「生活や学習上の課題を見付け,自分の力で解決しようとする」とはキャリア教育で育てたい能力と深くかかわるものです。

小学校家庭科の最後の題材ということで,本題材で実践した内容について伝えるとともに,家庭科で学んだ知識・技能を生かして家族や地域の人々に感謝の気持ちを表す場を「感謝の会」として設定した実践です。



## 全体構想

### 〈道徳の時間〉

3-(2)

・自然の偉大さを知り,自然環境を大切に  
にする。

2-(5)

・日々の生活が人々の  
支え合いや助け  
合いで成り立っている  
ことに感謝し,それ  
にこたえる。

4-(5)

・父母,祖父母を敬愛  
し,家族の幸せを求  
めて,進んで役に立  
つことをする。

### 〈家庭科〉

「地域とのつながりを広げよう」(10時間)

○自分の生活や地域の生活を見つめてみよう。  
(1時間)

・自分の生活が近隣の人々や生活環境と,ど  
のようにかかわりがあるのかについて話し  
合う。

○自分にできることをやってみよう(5時間)

・近隣の人々とのかかわりを深めたり,生活環  
境に配慮したりする視点から課題を設定  
し,活動計画を立てて実行する。

・実行したことについて分かりやすくまとめ  
る。

○感謝の会を開こう(4時間)

・感謝の会を開くための計画について話し合  
う。

・感謝の会の準備をする。

・感謝の会を開く。(本時)

### 〈社会科〉

「わたしたちの生活と  
環境保全(5年)」

「世界の平和と日本の  
役割」

### 〈理科〉

「自然とともに生きる」

### 〈国語科〉

○わたしたちの「未来」  
について討論しよう。

「百年前の未来予想  
図」



# よりよくしようとする態度を育てる

## 《本時のねらい》

家庭科で学んだことを生かし、家族や地域の方へ実践内容や感謝の気持ちを伝える。

《展開》(10/10時間)

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	<p>感謝の会を開こう</p> <p>1 本時の流れとめあてを確認する。</p>	<p>◎社会生活にはいろいろな役割があり、支え合いながら自分たちの生活が成り立っていることや、家庭科で学んだことを自分も含めて家族や地域の方のために生かすことの大切さについて確認する。</p>
展開	<p>2 事前の計画に基づき、感謝の会を開く。</p> <p>(1)実践発表をする。</p> <p>(2)感謝の作文・プレゼントを贈る。</p> <p>(3)会食をする。</p>	<p>○実践発表は、簡潔で見える人に分かりやすい表現方法を工夫するよう準備の段階で助言をする。(ポスター・写真・実物の提示・実演等)</p> <p>○家族やお世話になった地域の方へのプレゼントは、本題材の前の題材である「生活を楽しくする物を作ろう」で製作した作品を用い、日常生活の中で家族などに活用してもらうようにする。</p> <p>○前時に、自分たちでサンドイッチや簡単な菓子などを作り、飲み物を用意して会食を行う。</p> <p>☆家庭科で学んだことを生かし、よりよい感謝の会にするために進んで活動しようとしている。</p>
まとめ	<p>3 本時の活動を振り返る。</p>	<p>◎本時の活動において、一人一人の果たすことができた役割や自分たちの活動が周囲の役に立つことの喜びについて確認し、今後の家庭生活への意欲付けとする。</p>

## 実践のポイント

### 児童と家庭、家庭と社会とのつながりを大切にしましょう

家庭科では、自己と家庭、家庭と社会とのつながりや、生涯の見通しをもって、よりよい生活を送るための能力と実践的な態度を育成することが重視されており、キャリア教育との関連が大変深い教科です。

本題材では小学校家庭科の総まとめとして、実践報告を含めた感謝の会を設定しました。このことにより次のような成果を上げることができます。

- 地域の人々とのかかわりや環境をよりよくするために実践したことを家庭や地域の人々に直接伝え、相手の考えや感想を聞くことにより自分の考えを深めたり、今後の実践への意欲を高めたりすることができる。
- 感謝の気持ちを表す方法として、2年間の家庭科で学習した調理や製作の活動を生かすことにより、「してもらう自分」から「できる自分」への成長を自覚することができる。

本実践は、家庭科の実践報告を含めた感謝の会の展開例を示していますが、例えば総合的な学習の時間の自分の将来について考える単元と関連付けて、「自分の将来の夢の発表を取り入れた感謝の会」といった他教科等との連携を図った実践もキャリア教育の視点から有効であるといえます。家庭科の特性である「衣食住などに関する実践的・体験的な活動」を生かしながら、家族をはじめ、人とかかわる意味やよさを理解できるようにすることが大切です。



# 《外国語活動》 外国語等を用いて将来の夢を紹介し、コミ

## 単元名 将来の夢を紹介しよう (6学年)

### ねらい

- 様々な職業の言い方に興味をもつ。
- 積極的に自分の将来の夢について、理由を含めて紹介したり友達の夢を聞き取ったりする。
- どのような職業に就きたいかを尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。

### 本実践とキャリア教育

2年間の外国語活動の最後である本単元では「将来の夢」を題材として取り上げます。総合的な学習の時間や道徳、国語科などに関連付けたり、これまでのキャリア教育にかかわる学習経験を生かしたりすることにより、未来に希望をはせながら外国語によるコミュニケーションを楽しむ活動を展開することができます。

また、中学校における外国語科への円滑な移行を図る観点から、中学校の外国語科の指導者をゲストティーチャーとして招いて活動における児童のよさを認めてもらったり、中学校における外国語科学習の特色などについて話してもらったりするなど、小・中連携の工夫が可能であれば取り入れたいものです。



## 全体構想

### 〈国語〉

- 表現を味わい、豊かに想像しよう

「やまなし」

「イーハトーブの夢」

※宮沢賢治の生き方から学ぶ。

### 〈道徳〉

4-(4)

- ・働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。

4-(7)

- ・郷土や我が国の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。

### 〈外国語活動〉

将来の夢を紹介しよう (4時間)

<第1時>

- ・様々な職業の言い方を知る。

<第2時>

- ・将来就きたい職業について話されていることを聞いて理解する。

<第3時>

- ・将来就きたい職業について、尋ねたり答えたりする。

<第4時> (本時)

- ・スピーチ・メモを基に、理由を含め自分の夢を紹介する。

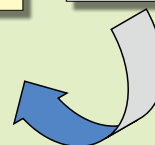
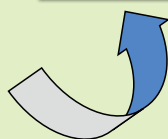
### 〈総合的な学習の時間〉

★「めざせ!○○の達人」

- ・職業人と深くかかわり合いながら生き方や職業観などについて探究活動を行い、学んだことを発表する。

★「未来への飛翔」

- ・自分の将来の夢や目標にかかわる探究活動を行い、まとめたことを発表する。



# コミュニケーションの楽しさを味わわせる

## 《本時のねらい》

スピーチ・メモをもとに、理由を含め自分の夢を紹介する。

《展開》(4/4時間)

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 挨拶する Hello.(I'm) good/fine/sleepy. 2 【Let's Chant】 ・チャンツを言う。	○中学校の外国語科指導者をゲストティーチャーとして招いた場合は自己紹介を取り入れる。 ○様々な職業を入れ替えて言うことにより、児童の興味を高める。
展開	3 【Activity 1】 (1)スピーチのやり方を知る。 Hello. My name is ~. I want to be a ~. I like ~. Thank you. (2)スピーチ・メモを基にスピーチをする。 4 【Activity 2】 ・友達のスピーチを聞いて、分かったことを英語ノートに書く。	◎将来の夢の理由は、英語でなくても絵やジェスチャー、日本語などで表現してもよいものとし、自分の考えの根拠を述べることの大切さについて理解させる。 ○発表の形態は、児童の実態に応じてグループや全体などの工夫をする。グループの場合はALTやゲストティーチャーも各グループに指導に入り、児童の発表に対して温かな感想を述べるようにする。 ☆スピーチ・メモを基に、理由を含めて自分が将来就きたい職業や夢をみんなに紹介する。
まとめ	5 本時の振り返りをし、あいさつをする。	◎最後のまとめとして、小学校での授業を振り返り、成長した点などについて話をし、児童の自己肯定感を高めるようにする。中学校の外国語科指導者をゲストティーチャーとして招いている場合は、今後期待したい点や中学校での学習について話してもらい、児童が期待と目的をもって中学校の外国語科授業に臨めるようにする。

## 実践のポイント

### 「自分の夢を伝えたい」という児童の思いを大切にしましょう

外国語活動においては、児童の発達段階を考慮した表現を用いることが大切です。過度に複雑なコミュニケーションを目指そうとするあまり、児童に対して負担を強いることのないように配慮する必要があります。本単元の「将来の夢とその理由」について紹介する題材においても、英語による完璧な紹介を求めるものではありません。外国語による紹介に、必要に応じて絵やジェスチャー、日本語による表現も取り入れながら、互いの夢を共有し、夢を外国語で表現できるようになったという成長の喜びを感じ合うことを大事にしたいものです。

# 《総合的な学習の時間》 「出会い」から仕事への視野を広

## 単元名 出会い 感動 輝け命 －「輝いて生きる」ことを考える－（第6学年）

### ねらい

- 「輝いている人」について関心をもって自分を見つめ直し、自分の課題を見付けることができる。
- 調べたことや意見を発表し合い、自分の考えや思いを高めていくことができる。
- 「輝いて生きている人」の生き方に触れ、自分に向き合い、自分の生き方を考えようとすることができる。

### 本実践とキャリア教育

本実践のように、卒業学年である第6学年では、自分を見つめ直し将来に向けての思いをもつことができる学習を設定したいものです。自分を見つめる機会を学習の中に取り入れ、生き生きと活躍している人の思いや生き方・姿勢から多くを学ぶことができる出会いや学びの場を工夫して、単元構成を進めましょう。

本単元では、他教科との関連を図りながら、子ども自らが課題を設定し主体的に追究していくとする資質や能力、探究活動を通して得た情報を自分らしく表現し発信する力などを一層高めていくことをねらって単元を構成しています。

## 全体構想

自分意識をもって  
課題を探究させるには

今までの学習を振り返り、「輝く姿」について話し合う場を設ける。  
なりたい自分の姿を文章化させる。

〈道徳〉  
2-(2)  
・だれに対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にする。  
3-(1)  
・生命がかげがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。

【課題の設定】  
「輝くこと」を考えよう(3)

【情報の収集】  
輝いている人の生き方や仕事をさぐる(6)

【整理・分析①】  
取材したことや調べたことをもとに、学習会の準備をしよう(3)

【まとめ・表現①】  
「輝くために」学習会を開こう(2)

【整理・分析②】  
「輝くために」交流会に向けて準備をしよう(3)

【まとめ・表現②】  
「輝くために」交流会で学びを語り合おう(本時1/3)

コミュニケーションを通して学びを広げられるようにするためには

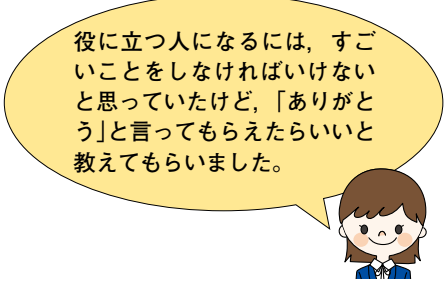
今輝いて生きている先生たちから直接お話を聞いたり質問したりする場と、友達と交流する場を盛り込んだ学習計画を立てる。  
友達の発表や対話、話し合いに関わる項目を振り返りの観点に盛り込んだ学習カードを用意する。

# 自分をみつめさせる

## 《本時のねらい》

ゲストティーチャーや友達の言葉を受けて自分自身の言葉で伝え合うことで、自己の内面を「輝かせていこう」という思いを高めることができる。

《展開》(18/20時間)

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 本時のめあてをつかむ。  伝え合おう、学び合おう。ぼくが学んだ「輝くために」 私が考えた「これから」	○いろいろな視点から考えが深まるように、似た課題をもつ各コースごとのメンバーでグルーピングをしておく。  ◎活発な交流ができるように、自分の考えの伝え方や質問の仕方を確認する。
展開	2 学習会でゲストティーチャーから学んだことを基に、自分が見つけた「輝くために」大切なことを伝え合う。   <p>役に立つ人になるには、すごいことをしなければいけないと思っていたけど、「ありがとう」と言ってもらえたらいいと教えてもらいました。</p>	◎活発な交流ができるように、友達の見解との関連性や類似点についての感想を伝え合うように助言する。  ◎うまく自分の言葉で表現できない子どもには、自分の学びを大切に共感したり比較したりしながら友達の発表を聞くように促す。
まとめ	3 本時の振り返りをする。	◎「自分」を意識して、思いを具体的に表現するように言葉をかける。 ☆学んだことや意見を伝え合い、輝くための考えや思いを高めることができる。 ○数人の感想を紹介し、次時への意欲の喚起を図る。

## 実践のポイント

### 生き方を考えることができるゲストティーチャーとの出会いにしましょう

総合的な学習の時間においては、すばらしい生き方をしてきた人生の先輩から直接語っていたことを学習の中に取り入れることが多くの学校で行われています。子どもの心を揺さぶり生き方に関しての意識を変容させる出会いとするためには、次のような点も押さえた上でゲストティーチャーをお願いするとよいでしょう。

- 子どもにとって必要感のある出会いとなっているか。
- 授業のねらいやゲストティーチャーの役割等について、教師との共通理解はできているか。
- その後の交流や発展学習での対応は可能か。

### 積み重ねてきた学習の内容を生かして単元構成をしましょう

一人一人にふさわしい課題意識をもたせるためには、その年度の総合的な学習の時間の単元構成だけを考えてもうまくいきません。特に、自己の生き方に関する前向きな意識を育てていくためには、他教科や領域との関連や前学年までにどのような学習を経験してきたかが大切になってきます。本実践では、「生き方」や「命」に関して積み重ねてきた学習の内容をうまく取り入れることで、子どもの課題意識を深めていきましょう。

# 《特別活動・学級活動》 中学生と一緒に活動することを

## 題材名 3校交流集会を成功させよう(第6学年)

### ねらい

中学校生活について知り、よりよい中学校生活に向けて自己の考えを深めることができる。

### 本実践とキャリア教育

近年は、中学校学区単位での小中連携が多く見られます。小→中の流れを踏まえた教育計画を進めていくことにより、学力向上や生徒指導上の問題の未然防止・早期解決等に一定の成果を上げている学校も増えています。6年生の子どもたちにとっては、連携を進めることにより、「中学校の学習内容や授業の進め方に対する不安を解消し、意欲を高めることができる」「入学時の入部意思決定を容易にすることができる」「活動を通して中学校生活の楽しさを味わい、中学校進学に対する漠然とした不安を払拭することができる」といった効果を期待することができます。自己の生き方を考えるというキャリア教育の視点からも、6年生の中学校進学間近という機会をとらえて小・中の連携を深めていきたいものです。

ここでは、実践例として6年生と中学生との交流集会(3校交流集会)に向けての話合い活動を挙げています。6年生にとって交流集会での質問項目を考えることが中学校生活に向けて自分を見つめるきっかけとなるなど、前向きな意欲をもつことにつながる活動です。

## 全体構想

〈児童会活動〉  
(1)児童会の計画や運営

### 【3校交流集会まで】

- 3校交流集会の原案作成  
(中～生徒会, 小～代表委員会)
  - ・中学校生徒会から交流集会の概要提案
  - ・各小学校の代表委員会による検討
  - ・各小学校で、中学校生活で知りたいことについて話し合う(本時)  
～学級活動(2)ア
  - ・体験授業・部活動の希望調査
  - ・小・中学校の児童・生徒の役割分担決定
- 打合わせ
  - ・タイムスケジュールの調整
  - ・各小学校代表委員が中学校で生徒会執行部と一緒に3校交流集会リハーサル

### 〈道徳〉

- 4-(3)身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。
- 4-(6)先生や学校の人々への敬愛を深め、みんなで協力し合いよりよい校風をつくる。

3校交流集会(A小学校, B小学校, C中学校)



## 通して、中学校生活への希望や意欲を高める

## 《本時のねらい》

友達の意見を聞いたり、自分の考えを分かりやすく話したりして、3校交流会で中学生に質問することを決めることができる。

## 《展開》

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 提案の内容を聞き、話し合いのめあてをつかむ。 <b>3校交流会で中学生に質問することを決めよう</b>	○中学校生活についての思いをふくらませておくことができるように、事前に議題を示しておく。
展開	2 話し合いをする。 (1)中学校生活の概要を知る。 (2)中学校生活について知りたいことや不安に思っていることを書き出す。 (3)3校交流会で質問したいことについて話合う。 3 決まったことを確認する。	○中学校生活についての概要をつかませるために、生徒会が作成した資料を活用する。 ◎「みんなが知りたいこと・不安に思っていること」という視点にも気付かせる。 ○理由をはっきりさせた意見を出すことができるように、シートに理由を書く欄を設ける。 ◎話し合いに積極的に参加できるように、不安を解消することが中学校生活に前向きに向かうことにつながることを伝える。 ○ノート書記が簡潔にまとめて話すことができるように項目を整理して示す。
まとめ	4 振り返りをする。 (1)一人一人の振り返り (2)「今日のきらり」の発表 5 教師の話聞く。	○話し合いのめあてに沿った振り返りができるように声かけをしていく。 ☆友達の考えのよさを取り入れながら、中学生への質問を考えることができる。 ◎中学校生活について夢をふくらませながら思い描くことができるように、中学生からの手紙を紹介する。

## 実践のポイント

## 中学校生活に触れさせましょう

この実践例では、時数に表れない部分で小中の子どもたちの間での事前打合わせをしています。また、生徒会が作成した資料を使って、学級活動の時間に中学校生活に向けての希望を語り合うことで、中学校生活への意欲を高め、さらにはその先にある将来の夢への道筋を感じ取ることができます。それらの活動が、本番の交流集会での生き生きとした活動の様子や、その集会の中で一人一人が主体的に自分の将来を思い描いたことにつながります。そして、その後の前向きな中学校生活にもかかわっていくでしょう。

## 小学生が主体的にかかわる部分を設定しましょう

小中合同の行事を企画するとき、小学生が招待される場合が多くあります。小・中学校間の距離といった地理的条件や時間的・人的な条件等、クリアしなくてはならない課題はありますが、小学生が主体的にかかわる部分を設定し、子どもたちが自分を見つめ前向きな意欲をもてるよう配慮することが大切です。

# 《特別活動・学校行事》 勤労の尊さを味わわせ，奉仕の精

## 異年齢集団による地域クリーン作戦(勤労生産・奉仕的行事 全校児童)

### ねらい

異年齢集団による地域の清掃活動において，それぞれが自分の役割を果たしながら協力して活動するとともに，働くことの大切さや喜び・充実感を味わい，進んで他に奉仕しようとする態度を育てる。

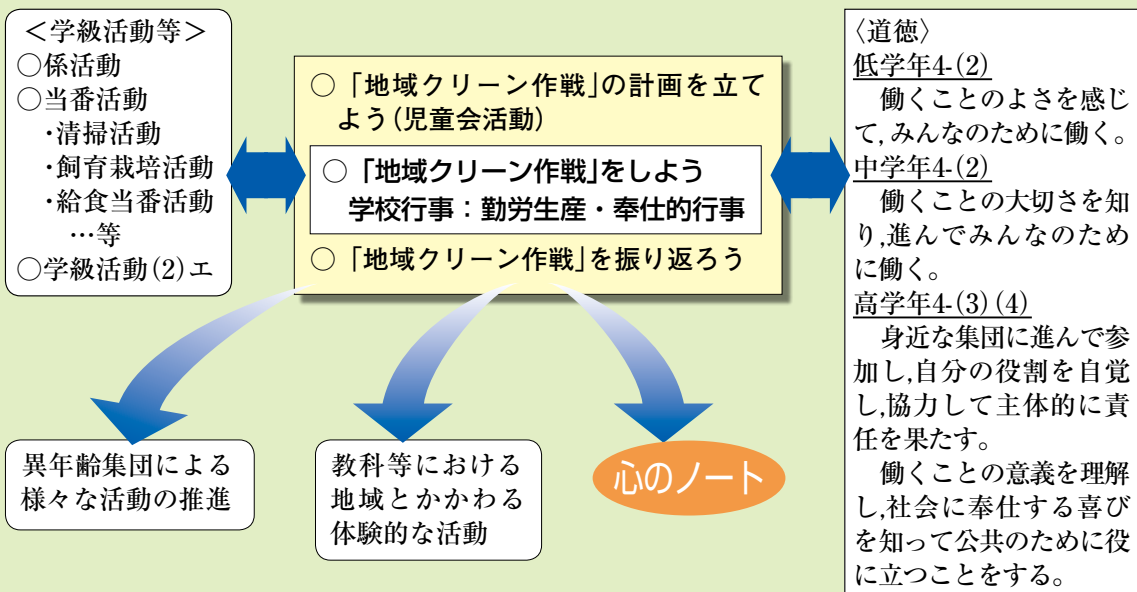
### 本実践とキャリア教育

本実践のねらいは，全校縦割り班ごとに地域の清掃美化活動の計画を立て，友達と協力しながら活動することを通して，勤労の価値や必要性を体得するとともに，自らを豊かにし，進んで他に奉仕しようとする態度を育てることです。望ましい勤労観・職業観を養う上で，キャリア教育との関連が深い活動です。「体験的な活動を通す」という特別活動の特質や異年齢集団活動のよさを生かし，それぞれの発達の段階に応じてキャリア発達を支援していくことが大切です。例えば，次のようなねらいが考えられます。

- ・低学年…働く楽しさ，役に立つうれしさなどが感じられるようにする。
- ・中学年…自分の役割を果たし，力を合わせて働くことの大切さを理解し，進んで働くようとする態度を育てる。
- ・高学年…勤労を尊ぶ心を育てながら，働くことの意義を理解して社会に役立つことができるようにする。また，リーダーとしての役割や責任を果たせるようにする。

異年齢集団の中で役割を分担し，協力することにより所属感を高め，望ましい人間関係の形成を目指していきたいものです。また，今回の学習指導要領の改訂で新しく加わった学級活動(2)のエ「清掃活動などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解」や道徳の時間との関連を図りながら，事前・事後指導を充実させ，効果的な指導を工夫していくことが望まれます。地域や学校に貢献していることが実感できるように配慮しながら，児童の活動意欲を高めていきましょう。

## 全体構想




## 神を養う

## 《本時のねらい》

縦割り班ごとに、自分たちの住んでいる地域の清掃活動の計画を立て、友達と協力しながら取り組むことができる。

## 《展開》

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
事前	自分たちの住んでいる地区ごとにクリーン作戦の内容について話し合う。 ・目当て ・場所 ・役割分担 ・気をつけること …等	◎各学年が、道徳の時間や学級活動との関連を図った事前指導を行い、発達の段階に応じてクリーン作戦の意味を理解させるとともに、意欲を高めておく。  ○児童が自信をもって活動できるように、教師も担当する班の相談に乗ったり、励ましたり助言したりする。
展開	1 班ごとに、目当てや役割分担、安全面等を確認する。 2 縦割り班で自分たちが住んでいる地域のクリーン作戦(清掃活動)を行う。  3 活動を振り返り、感想を述べ合う。 4 付き添っていただいた方の話を聞く。	○各班ごとに地域の人の付き添いをお願いし、安全面に配慮する。  ◎発達の段階に応じためあてを意識して活動できるようにする。  ☆低学年：自分のできることを一生懸命に行い、働くことへの関心を高めている。 ☆中学年：役割意識をもって友達と協力して取り組み、かかわりを深めている。 ☆高学年：リーダーとして自分の役割や責任を果たし、役立つ喜びを味わっている。  ◎一人一人のがんばりを認め、人や地域のために体を使って働くことの喜びや充実感を味わえるようにする。
まとめ	・各班ごとに「地域クリーン作戦」を振り返ってまとめる。 ・集会や放送、掲示等で「地域クリーン作戦」の内容や感想などを発表する。	○活動を振り返ることにより、互いのよさを認め合い、喜びを味わえるようにする。  ◎活動の振り返りを全校で共有することを通して、働くことは自分の能力を生かし、人や社会のために役立つことであるということを理解させ、奉仕の心を育てるとともに、働くことの喜びを味わわせ、今後の意欲へとつなげる。

## 実践のポイント

## 事前・事後指導を充実させましょう

「地域クリーン作戦」を意味ある活動にしていくためには、事前・事後指導の充実が大切です。事前指導では、各学年が道徳の時間や学級活動などの時間を通して、意欲を高めたり発達の段階に応じためあてを明確にしたりしていきます。また、事後指導では、「地域クリーン作戦」を通して気付いたことなどを振り返らせながら、まとめたり、発表し合ったりする活動を充実させるよう工夫することが大切です。

## 安全面での配慮を十分に行いましょう

各班ごとに担当の教員が下見をしたり、地域の方に参加していただいたりすることにより、安全面での配慮をしておくことが大切です。